

近つ飛鳥博物館の建物

この博物館は、数多くの 6 世紀に築造された古墳群が保存されている風土記の丘公園内に 1994 年に建てられた。博物館の建物はどちらも自然の景観に溶け込み、近隣の古墳の形状や構造に呼応している。

設計したのは、プリツカー賞受賞の日本の建築家、安藤忠雄（1941 年 - ）氏だ。鉄骨の強化コンクリート構造で、安藤氏の哲学である、自然と建築物の共存を表わしている。建物は傾斜した元々の地形を活かした構造となっている。屋根は広大な階段で、野外劇場として使われることもあり、ここから周辺の梅林や桜の木を一望できる。

安藤氏のシンプルで装飾のないデザインは、古墳博物館・近隣公園という目的に相応しい。広々としたメイン展示ホールは、博物館に展示されている古墳と共通する前方後円墳の形状である。通路を下って行くと階下の展示へと進むので、地中の墓へ入り、過去にタイムスリップしたような錯覚に陥る。展示の最後には、自然の光に包まれたアトリウムに出て、明るい現実の世界に戻ってくる。

安藤忠雄氏の熟練した光の使い方は、博物館の重要な体感部分となっている。安藤氏の設計に多く見られるように、建物は光と影、閉じられた場所と開かれた場所、自然と人工というコントラストを究めた場所だ。空間を通り抜けることで、生と死が交差する状態をじっくりと考えることができる。